

受理年月日	令和3年5月24日	所管委員会	総務財政委員会
番号	3年陳情第7号		
件名	辺野古基地建設のために沖縄戦犠牲者の遺骨の残る沖縄本島南部から土砂を採取することの中止を求める意見書議決について		
陳情者	[Redacted]		
分割送付	なし		
要旨	<p>沖縄県では、米軍の普天間飛行場（宜野湾市）移設に伴う名護市辺野古沿岸部の埋立工事が実施されており、埋立てのため沖縄本島南部の土砂を使用する計画があることが、明らかになりました。</p> <p>沖縄は第二次世界大戦時に住民を大規模に巻き込んだ唯一の地上戦が行われた場所であり、合計約20万人以上の犠牲者を出しました。辺野古基地建設のための土砂採取場所として検討されている本島南部の土砂には、沖縄住民、本土から召集された日本兵、米兵、朝鮮出身の方々など、沖縄戦に巻き込まれた様々な方々の遺骨が混じっていると考えられています。</p> <p>本島南部には今も未調査のガマ（洞窟）が残され、40年近く沖縄戦没者の遺骨収集を続けているボランティア、ガマフヤーの代表者によると、糸満市にある魂魄の塔付近で遺骨が発見され、DNA鑑定による特定が急がれています。</p> <p>2016年に国会において、戦没者の遺骨収集の推進に関する法律が超党派の議員立法により全会一致で成立し、同法第1条には「戦没者の遺族をはじめ今次の大戦を体験した国民の高齢化が進展している現状において、いまだ多くの戦没者の遺骨の収集が行われていないことに鑑み、戦没者の遺骨収集の推進に関し国の責務を明らかにする」との目的を記しており、2024年までを集中実施期間と指定しています。</p> <p>にもかかわらず、政府は、国の責務で遺骨収集に当たるという同法の精神に反し、遺骨の混じった土砂を使って辺野古基地建設を強行しようとしています。これは、国会で示された戦没者とその遺族の尊厳の尊重を求める民意への裏切りであり、国家的な人権侵害、民主主義からの逸脱行為です。よって、人道的、倫理的な観点から速やかに中止すべきです。</p> <p>沖縄戦では、日本全国から召集された日本兵が沖縄守備軍として沖縄に駐屯しました。本土防衛のために沖縄を捨て石にする持久戦の中で、日本軍は沖縄住民に犠牲を強いつつ、約6万6,000人の日本兵も命を奪われました。2021年4月1日現在、4,030人の福岡県出身者が沖縄戦犠牲者として平和の礎に刻銘されています。かけがえのない命を落とした先人たちの尊厳を守るために、私たちは、沖縄の問題と他人事にするのではなく、当事者として考え、取り組む必要があります。</p> <p>よって、以下の事項について、地方自治法第99条の規定により、国に対し意見書を提出するよう陳情します。</p> <p>1. 辺野古基地建設のために沖縄戦犠牲者の遺骨の残る沖縄本島南部から土砂を採取することを中止すること。</p>		

辺野古基地建設のために沖縄戦犠牲者の遺骨の残る沖縄本島南部からの土砂採取中止を求める陳情書

福岡市議会 阿部 真之助殿

2021年5月21日

【陳情趣旨】

沖縄県では、米軍の普天間飛行場（宜野湾市）移設に伴う名護市辺野古沿岸部の埋め立て工事が実施されており、埋め立てのため沖縄本島南部の土砂を使用する計画があることが、明らかになりました。

沖縄は第2次世界大戦時に住民を大規模に巻き込んだ唯一の地上戦が行われた場所であり、合計約20万人以上の犠牲者を出しました。辺野古新基地建設の為に土砂採取場所として検討されている本島南部の土砂には、沖縄住民・本土から召集された日本兵・米兵・朝鮮出身の方々など、沖縄戦に巻き込まれた様々な方々の遺骨が混じっていると考えられています。

本島南部には今も未調査のガマ（洞窟）が残され、40年近く沖縄戦没者の遺骨収集を続けているボランティア「ガマフヤー」代表の具志堅隆松さんによると、糸満市「魂魄の塔」付近で遺骨が発見され、DNA鑑定による特定が急がれています。

2016年に国会において、戦没者遺骨収集推進法が超党派の議員立法により全会一致で成立し、同法第1条には、「戦没者の遺族をはじめ今次の大戦を体験した国民の高齢化が進んでいる現状において、いまだ多くの戦没者の遺骨の収集が行われていないことに鑑み、戦没者の遺骨収集の推進に関し国の責務を明らかにする」との目的を記しており、2024年までを「集中実施期間」と指定しています。

にもかかわらず日本政府は、国の責務で遺骨収集にあたるという同法に反し、遺骨の混じった土砂を使って新基地建設を強行しようとしています。これは、国会で示された戦没者とその遺族の尊厳の尊重を求める民意への裏切りであり、国家的な人権侵害、民主主義からの逸脱行為です。よって、人道的・倫理的な観点からすみやかに中止すべきです。

沖縄戦では、日本全国から召集された日本兵が「沖縄守備軍」として沖縄に駐屯しました。「本土」防衛のために沖縄を捨て石にする持久戦の中で、日本軍は沖縄住民に犠牲を強いつつ、約6万6千人の日本兵も命を奪われました。2021年4月1日現在、4,030名の福岡県出身者が沖縄戦犠牲者として平和の礎に刻銘されています。かけがえのない命を落とした先人たちの尊厳を守るために、私たちは「沖縄の問題」と他人事にするのではなく、当事者として考え、取り組む必要があります。

【陳情事項】

- 一、 辺野古基地建設のために沖縄戦犠牲者の遺骨の残る沖縄本島南部からの土砂採取を中止すること

を議会において採択し、その旨の意見書を、地方自治法第99条の規定により、国及び衆議院・参議院に提出してください。

